

この Readme ファイルでは、ZENworks 11 Support Pack 4 リリースに関する情報を提供します。

- ◆ 1 ページのセクション 1 「インストール」
- ◆ 1 ページのセクション 2 「ZENworks 11 SP4 へのアップグレードの計画」
- ◆ 2 ページのセクション 3 「アップグレード」
- ◆ 3 ページのセクション 4 「新機能」
- ◆ 3 ページのセクション 5 「ZENworks Reporting」
- ◆ 3 ページのセクション 6 「既知の問題」
- ◆ 15 ページのセクション 7 「その他のマニュアル」
- ◆ 16 ページのセクション 8 「保証と著作権」

1 インストール

システム要件およびインストール手順については、『ZENworks 11 SP4 サーバインストールガイド』を参照してください。

重要

- ◆ ZENworks 11 SP4 をインストールする前に、ご使用のデバイスで IPv6 を無効にしてください。ZENworks 11 SP4 では IPv6 はサポートされていません。
- ◆ SUSE Linux Enterprise Server 12 を使用して ZENworks 11 SP4 をインストールする場合、libXtst6-32bit-1.2.2-3.60.x86_64.rpm が必要です。
- ◆ SUSE Linux Enterprise Server 12 では、Yast アドオンを使用して ZENworks Agent をインストールすることはできません。

2 ZENworks 11 SP4 へのアップグレードの計画

管理ゾーン内での ZENworks 11 SP4 へのアップグレードを計画するには、次のガイドラインを使用します。

- ◆ まずプライマリサーバをアップグレードし、次にサテライトサーバ、最後に管理対象デバイスという順番で ZENworks 11 SP4 にアップデートする必要があります。ゾーン内のすべてのプライマリサーバが 11 SP4 にアップグレードされるまで、管理対象デバイスおよびサテライトサーバをアップグレードしないでください (または、新しい 11 SP4 エージェントをゾーンに追加しないでください)。

注: プライマリサーバがすべてアップグレードされるまで、エージェントは整合性のないデータを受け取る可能性があります。したがって、このプロセスのこの部分はできる限り短時間で実行することをお勧めします。理想的には、最初のプライマリサーバのアップグレード直後に実行します。

- 管理対象デバイスが ZENworks 10.3.4 以上に更新されている場合、ゾーン内の管理対象デバイスを直接 ZENworks 11 SP4 にアップデートできます。

ZENworks 11 SP4 へのアップグレードが完了すると、システムは再起動します。ただし、次の場面では再起動が 2 回必要になります。

表 1 再起動が 2 回必要な場面

場面	ZENworks Endpoint Security	Full Disk Encryption	ロケーションサービス	クライアントセルフディフェンス
10.3.4 から 11 SP4 へのアップグレード	無効	無効	ライト	有効
11 SP4 の新規インストール	無効	無効	ライト	有効
11 SP4 の新規インストール	無効	無効	フル	有効

重要: ZENworks 11.2 以前が実行されているすべてのプライマリサーバは、まず ZENworks 11.3.0 以上にアップグレードしてから、ZENworks 11.4 にアップグレードする必要があります。サテライトサーバおよび管理対象デバイスは、10.3.4 にアップデートしてから ZENworks 11 SP4 にアップデートする必要があります。

表 2 11 SP4 への ZENworks 累積エージェントアップデート: サポートされるパス

デバイスタイプ	オペレーティングシステム	サポートされるバージョン	サポートされないバージョン
プライマリサーバ	Windows/Linux	v11.3 以上のバージョン	11.3 より前の任意のバージョン
サテライトサーバ	Windows/Linux/Mac	v10.3.4 以上のバージョン	10.3.4 より前の任意のバージョン
管理対象デバイス	Windows	v10.3.4 以上のバージョン	10.3.4 より前の任意のバージョン
	Linux	v11.0 以上のバージョン	NA
	Mac	v11.2 以上のバージョン	NA

3 アップグレード

プライマリサーバ、サテライト、および管理対象デバイスのアップグレードのための前提条件および手順に関する詳細については、『ZENworks 11 SP4 アップグレードガイド』を参照してください。

4 新機能

ZENworks 11 SP4 の新機能の詳細については、「[ZENworks 11 SP4 の新機能](#)」を参照してください。

5 ZENworks Reporting

ZENworks Reporting 5 の新バージョンは ZENworks 11 SP4 と同時にはリリースされません。後日リリース予定です。その間、以前にリリースされた ZENworks Reporting 5 は引き続き ZENworks 11 SP4 で動作します。

6 既知の問題

この項では、ZENworks 11 SP4 の使用時に発生する可能性がある問題について説明します。

- ◆ [3 ページのセクション 6.1 「インストール」](#)
- ◆ [4 ページのセクション 6.2 「アップグレード」](#)
- ◆ [6 ページのセクション 6.3 「アプライアンス」](#)
- ◆ [8 ページのセクション 6.4 「Configuration Management」](#)
- ◆ [13 ページのセクション 6.5 「Endpoint Security Management」](#)
- ◆ [14 ページのセクション 6.6 「Full Disk Encryption」](#)
- ◆ [15 ページのセクション 6.7 「Patch Management」](#)

6.1 インストール

この項では、ZENworks 11 SP4 のインストール時に発生する可能性がある問題について説明します。

- ◆ [3 ページのセクション 6.1.1 「ZENworks のロールバック完了後、Windows サーバに linux-ioa-update.xml ファイルが残る」](#)
- ◆ [4 ページのセクション 6.1.2 「ロールバック後に ZENworks を再インストールする際、インストールが失敗またはハングする」](#)
- ◆ [4 ページのセクション 6.1.3 「ZENworks のアンインストール後、失敗メッセージが表示される」](#)
- ◆ [4 ページのセクション 6.1.4 「異なる認証モードを使用すると、Microsoft SQL データベースでインストールに失敗する」](#)

6.1.1 ZENworks のロールバック完了後、Windows サーバに linux-ioa-update.xml ファイルが残る

Windows サーバ上の ZENworks をロールバックした場合、サーバに linux-ioa-update.xml ファイルが残ります。

解決策：ZENworks のロールバック完了後、次の手順で linux-ioa-update.xml ファイルを手動で削除します。

- 1 %ZENWORKS_HOME%\install\downloads\rpm に移動します。
- 2 linux-ioa-update.xml ファイルを削除します。

6.1.2 ロールバック後に ZENworks を再インストールする際、インストールが失敗またはハングする

ロールバック後に ZENworks を再インストールする際、インストールが失敗またはハングします。

解決策：ZENworks のロールバック後、%ZENWORKS_HOME% 環境変数を削除してから ZENworks を再インストールします。

6.1.3 ZENworks のアンインストール後、失敗メッセージが表示される

ZENworks のアンインストール後、成功メッセージではなく失敗メッセージが表示されます。

解決策：この失敗メッセージは無視してください。

6.1.4 異なる認証モードを使用すると、Microsoft SQL データベースでインストールに失敗する

データベース管理者とアクセスユーザで異なるモードを使用している場合、Microsoft SQL データベースでインストールに失敗します。

推奨：データベース管理者とアクセスユーザの両方で同じ認証モード (*Windows 認証*または *SQL 認証*) を使用します。

6.2 アップグレード

この項では、ZENworks 11 SP4 のアップグレード時に発生する可能性がある問題について説明します。

- [4ページのセクション6.2.1「MS SQL データベースで ZENworks 11.3.x から ZENworks 11 SP4 へのアップグレードに数分から数時間かかる場合がある」](#)
- [5ページのセクション6.2.2「自己暗号化 \(OPAL\) ドライブ上の Full Disk Encryption をアップグレードできない」](#)
- [6ページのセクション6.2.3「ImageDataBridge.dll がエクスプローラープロセスによってロードされている場合、ZENworks 11 SP4 のアップグレードに失敗することがある」](#)

6.2.1 MS SQL データベースで ZENworks 11.3.x から ZENworks 11 SP4 へのアップグレードに数分から数時間かかる場合がある

Microsoft SQL データベースで ZENworks 11.3.x から ZENworks 11 SP4 にアップグレードする際、一部の大容量テーブルで、使用されていないデータタイプを置き換えるのに数分から数時間かかる場合があります。

アップグレードプロセスが停止したように見える場合があります。しかし、アップグレードプロセスはバックグラウンドで実行され続けています。このプロセス中にアップグレードウィザードを終了しないでください。

解決策：ありません。

注：ZENworks データベースで次のクエリを実行すると、アップグレードプロセスを監視できます。

```
SELECT * FROM DeprecatedDataTypesLog ORDER BY ENDTIME DESC
```

6.2.2 自己暗号化 (OPAL) ドライブ上の Full Disk Encryption をアップグレードできない

自己暗号化 (OPAL) ドライブを使用するデバイス上の Full Disk Encryption がアップグレードされません。このエラーは、現在のディスク暗号化ポリシーの強制には影響しません。ディスク暗号化ポリシーは引き続き有効で、適切に強制されています。ただし、解決策を実行するまで、デバイスで新しい ZENworks 11 SP4 Full Disk Encryption オプションを使用することはできません。

解決策 : Full Disk Encryption コンポーネントを正常にアップグレードするには、次の手順に従います。

- 1 デバイスで ZENworks Adaptive Agent の ZENworks 11.3.2 FRU1 バージョンが実行されていることを確認します。
このバージョンより前のバージョンのエージェントには、デバイスからのポリシーの削除に問題があります。この解決策では、デバイスがバージョン 11.3.2 FRU1 である必要があります。
- 2 デバイスからディスク暗号化ポリシーを削除します。手順は次のとおりです。
 - 2a ZENworks コントロールセンターでポリシーの割り当てを削除します。
 - 2b デバイスを更新します。
 - 2c プロンプトが表示されたら再起動します。
 - 2d [ZENworks Full Disk Encryption] ダイアログボックス ([Z] アイコン > Full Disk Encryption > バージョン情報) で、ポリシーが適用されていないことを確認します。
- 3 デバイスから Full Disk Encryption Agent を削除します。手順は次のとおりです。
 - 3a ZENworks コントロールセンターにログインします。
 - 3b 1つのデバイスからエージェントをアンインストールするには、Devices (デバイス) をクリックします。続いて、詳細を表示するデバイスをクリックし、Settings (設定) タブ > Device Management (デバイス管理) > ZENworks Agent の順にクリックします。
または
デバイスフォルダ内のすべてのデバイスからエージェントをアンインストールするには、Devices (デバイス) をクリックします。デバイスフォルダの横にあるチェックボックスをオンにし、Details (詳細) をクリックしてフォルダの詳細を表示します。続いて、Settings (設定) タブ > Device Management (デバイス管理) > ZENworks Agent の順にクリックします。
または
ゾーン内のすべてのデバイスからエージェントをアンインストールするには、Configuration (環境設定) をクリックします。続いて、Device Management (デバイス管理) ([Management Zone Settings (管理ゾーンの設定)] の下) > ZENworks Agent の順にクリックします。
 - 3c (条件付き) 1つのデバイスまたはデバイスフォルダからアンインストールする場合、Override (上書き) をクリックして、変更する設定を有効にします。
 - 3d [Agent Features (エージェントの機能)] で、Full Disk Encryption の Installed (インストール済み) チェックボックスをオフにします。
 - 3e OK をクリックして変更を保存します。

3f 1つまたは複数のターゲットデバイスでエージェントの更新を実行します。

Full Disk Encryption Agent が削除されるため、更新には通常よりも長い時間がかかります。更新が完了したら、ZENworks Adaptive Agent のプロパティページを表示して (通知領域の [Z] アイコンをダブルクリックします)、*Full Disk Encryption* が表示されていないことを確認します。また、Full Disk Encryption Agent も [スタート] に表示されなくなっています。

- 4 まだ実行していない場合は、ZENworks プライマリサーバをアップグレードし、デバイスの ZENworks Adaptive Agent をアップグレードします。
- 5 デバイスに Full Disk Encryption Agent をインストールします。手順は次のとおりです。
 - 5a ステップ 2 の手順に従いますが、Full Disk Encryption の *Installed* (インストール済み) チェックボックスをオンします。
 - 5b 1つまたは複数のターゲットデバイスでエージェントの更新を実行します。
- 6 ディスク暗号化ポリシーをデバイスに割り当て、デバイスを更新してポリシーを強制します。

6.2.3 ImageDataBridge.dll がエクスプローラープロセスによってロードされている場合、ZENworks 11 SP4 のアップグレードに失敗することがある

ZENworks 11.3.x から ZENworks 11 SP4 へのアップグレード中に ImageDataBridge.dll ファイルがエクスプローラープロセスによってロードされている場合、アップグレードに失敗することや、ImageDataBridge.dll ファイルが最新バージョンにアップデートされないことがあります。

解決策：もう一度システム更新を展開するか、ImageDataBridge.dll ファイルが最新バージョンにアップデートされていることを手動で確認します。

6.3 アプライアンス

この項では、ZENworks 11 SP4 アプライアンスの使用時に発生する可能性がある問題について説明します。

- ◆ 7 ページのセクション 6.3.1「ZENworks Appliance Migration Utility でマウント済みフォルダからデータがコピーされない」
- ◆ 7 ページのセクション 6.3.2「ZENworks アプライアンスの設定後、RemoteConnectFailureException エラーが表示されることがある」
- ◆ 7 ページのセクション 6.3.3「ZENworks アプライアンスの再起動中にエラーメッセージが表示される」
- ◆ 7 ページのセクション 6.3.4「ZENworks アプライアンスで setup.sh -c --zcminstall コマンドを使用してデータベースを作成できない」
- ◆ 7 ページのセクション 6.3.5「Citrix XENServer に ZENworks アプライアンスの .ova ファイルを展開するのに数時間かかる場合がある」
- ◆ 8 ページのセクション 6.3.6「複数の IP アドレスを使用している場合、ZENworks アプライアンスの [Summary (サマリ)] ページから ZENworks コントロールセンターを起動できない」
- ◆ 8 ページのセクション 6.3.7「ZENworks の設定中に NullPointer 例外が発生することがある」

6.3.1 ZENworks Appliance Migration Utility でマウント済みフォルダからデータがコピーされない

ZENworks 11 SP3 アプライアンスに外部コンテンツリポジトリがマウントされている場合、ZENworks Appliance Migration Utility によってマウント済みフォルダからデータがコピーされません。この場面では、「File or Folder not found (ファイルまたはフォルダが見つかりません)」という例外が表示されることがあります。

解決策: ZENworks Appliance Migration Utility によって表示されるエラーは無視して構いません。外部コンテンツリポジトリを ZENworks 11 SP4 アプライアンスにマウントして、マイグレーションプロセスを続行してください。

6.3.2 ZENworks アプライアンスの設定後、RemoteConnectFailureException エラーが表示されることがある

ZENworks アプライアンスの設定後、RemoteConnectFailureException エラーが表示されることがあります。

解決策: ターミナルを開き、rcvabase-datamodel status コマンドを実行します。rcvabase-datamodel サービスが実行されていないことを状態が示している場合、rcvabase-datamodel start コマンドを実行してサービスを起動してから、rcvabase-jetty restart コマンドを実行して rcvabase-jetty サービスを再開します。

または

ZENworks アプライアンスを再起動します。

6.3.3 ZENworks アプライアンスの再起動中にエラーメッセージが表示される

ZENworks アプライアンスの再起動中に次のエラーメッセージが表示されることがあります。

ERROR: transport error 202: bind failed: Address already in use (エラー: トランスポートエラー 202: バインドに失敗しました: そのアドレスは既に使用されています)

解決策: このエラーメッセージは無視してください。

6.3.4 ZENworks アプライアンスで setup.sh -c --zcminstall コマンドを使用してデータベースを作成できない

ZENworks アプライアンスで、ZENworks インストーラ (usr/share/ZCMInstaller) を起動する際に、setup.sh -c --zcminstall コマンドを使用してデータベースを作成できません。

解決策: ありません

6.3.5 Citrix XENServer に ZENworks アプライアンスの .ova ファイルを展開するのに数時間かかる場合がある

Citrix XENServer に ZENworks アプライアンスの .ova ファイルを展開する際、数時間かかる場合があります。

解決策: ありません

6.3.6 複数の IP アドレスを使用している場合、ZENworks アプライアンスの [Summary (サマリ)] ページから ZENworks コントロールセンターを起動できない

サーバで複数の IP アドレスを使用している場合、ZENworks アプライアンスの [Summary (サマリ)] ページから ZENworks コントロールセンターを起動しようとする、非アクティブな IP アドレスが選択され、ZENworks コントロールセンターにアクセスできません。

解決策：ホスト名またはアクティブな IP アドレスを使用して手動で ZENworks コントロールセンターを起動します。

6.3.7 ZENworks の設定中に NullPointerException 例外が発生することがある

ZENworks の設定中に NullPointerException 例外が発生することがあります。

解決策：Web ブラウザを更新して ZENworks を設定します。

6.4 Configuration Management

この項では、ZENworks 11 SP4 Configuration Management の使用時に発生する可能性がある問題について説明します。

- ◆ 9 ページのセクション 6.4.1 「追加のプライマリサーバが別のプライマリサーバと同じポートを使用する」
- ◆ 9 ページのセクション 6.4.2 「SLES 12 または SLED 12 デバイスへのリモートログイン時に空白の画面が表示される」
- ◆ 9 ページのセクション 6.4.3 「システム更新の再展開後に更新を取得できない」
- ◆ 9 ページのセクション 6.4.4 「一部のプライマリサーバで Certificate Remint Tool を使用できないことがある」
- ◆ 10 ページのセクション 6.4.5 「ワークステーションタイプのデバイスをサーバグループのメンバーとして追加したり、その逆を追加したりできる」
- ◆ 10 ページのセクション 6.4.6 「イメージングサテライトサーバ (11.3.1 以前) が最初のプライマリサーバと通信できない」
- ◆ 10 ページのセクション 6.4.7 「サーバ証明書が期限切れであっても、Remint Server Certificate (サーバ証明書の再作成) オプションが使用可能である」
- ◆ 11 ページのセクション 6.4.8 「プライマリサーバのコンソールセッションで [ZENNotify] アイコンの Check for updates (更新のチェック) オプションが使用できない」
- ◆ 11 ページのセクション 6.4.9 「再作成システム更新が、ゾーン CA をアクティブ化した後に追加されたプライマリサーバまたは管理対象デバイスに割り当てられる」
- ◆ 11 ページのセクション 6.4.10 「管理対象デバイスがその認証サテライトサーバと通信できない」
- ◆ 11 ページのセクション 6.4.11 「エージェントのインストール後、Windows 8 または Windows 8.1 オペレーティングシステムがインストールされた Lenovo および HP 製のタブレット PC がクラッシュしたり、間違ったシリアル番号が表示されたりすることがある」
- ◆ 12 ページのセクション 6.4.12 「Mac OS X 10.7.x プラットフォームで ZENworks プロパティページが空白になる」
- ◆ 12 ページのセクション 6.4.13 「Sybase データベースで起動場所の監査に失敗する (制約違反例外)」

- 12 ページのセクション 6.4.14「RHEL イメージングサーバが ZENworks 11 SP4 プライマリサーバと通信できない」
- 12 ページのセクション 6.4.15「SLES 12 イメージングサーバが ZENworks 11 SP 4 プライマリサーバと通信できない」
- 13 ページのセクション 6.4.16「ZENworks Remote Management の空白画面での操作に関する問題」
- 13 ページのセクション 6.4.17「ZENworks 11 SP4 サーバから 11.3.x 以前の管理対象デバイスをリモート制御できない」
- 13 ページのセクション 6.4.18「メッセージの表示起動アクションを使用してバンドルを起動した場合、メッセージが正しく表示されない」

6.4.1 追加のプライマリサーバが別のプライマリサーバと同じポートを使用する

プライマリサーバは、インストール時に既存のプライマリサーバと同じポートを使用します。これは、親プライマリサーバが使用するポートが追加のプライマリサーバ上で空いている場合に発生します。ポートがビジーである場合は、別のポートを使用するようプロンプトが表示されます。

6.4.2 SLES 12 または SLED 12 デバイスへのリモートログイン時に空白の画面が表示される

ZENworks コントロールセンターから、SLES 12 または SLED 12 オペレーティングシステムが実行されているデバイスに管理者としてリモートログインを実行しようとしたときに、ユーザがすでにリモートデバイスにログインしていると、空白の画面が表示されます。

解決策：デバイスに正常にログインするには、リモートログインを実行する前に、リモートデバイス上のユーザがログアウトする必要があります。

6.4.3 システム更新の再展開後に更新を取得できない

システム更新が失敗して FINISHED_WITH_ERROR 状態になった場合、および `zac zeus-refresh` コマンドの後にシステム更新の再展開を直ちに実行した場合、システム更新は再度開始されません。更新は ERROR 状態のままになります。

ZENUpdater によって FINISHED_WITH_ERROR 状態がプライマリサーバに更新された場合、ZeUS が更新されていない可能性があります。ZeUS サービスは起動していますが、更新が行われるのはサービスの起動後約 10 ~ 15 分後です。したがって、エラーがレポートされた後すぐに更新を再展開した場合、ZeUS を更新すると ZeUS は割り当てをフェッチしますが、更新が現在進行中であると想定するため、状態を FINISHED_WITH_ERROR としてレポートします。

解決策：システム更新がエラーで完了した場合、エラーがレポートされてから 10 ~ 15 分待たずに直ちに更新を再展開する必要があるときは、再展開の前に `zac zeus-refresh` コマンドを実行します。

6.4.4 一部のプライマリサーバで Certificate Remint Tool を使用できないことがある

認証局 (CA) の変更、CA の再作成、またはサーバの再作成プロセス中に、一部のプライマリサーバで Certificate Remint Tool (CRT) を使用できないことがあります。

解決策：状況に応じて、次の関連する手順を実行します。

- CA の再作成を実行する場合、CRT は現在の CA サーバ上で使用可能です。
- CA を内部に変更する場合、CRT は、新しい CA サーバとして選択したサーバ上で使用可能です。

- ◆ CA を外部に変更する場合、CRT は、操作を実行する ZENworks コントロールセンターサーバ上で使用可能です。
- ◆ サーバの再作成を実行する場合、CA が内部であるときは、CRT は現在の CA サーバ上で使用可能です。
- ◆ サーバの再作成を実行する場合、CA が外部であるときは、CRT は、操作を開始したサーバ上で使用可能です。

6.4.5 ワークステーションタイプのデバイスをサーバグループのメンバーとして追加したり、その逆を追加したりできる

あるデバイス (ソースデバイス) から別のデバイス (ターゲットデバイス) に関係をコピーする場合、ウィザードでは、ターゲットデバイスを、ソースデバイスが属する静的デバイスグループのメンバーにすることができます。

この動作のため、サーバタイプのデバイスを静的ワークステーショングループに追加したり、ワークステーションタイプのデバイスを静的サーバグループに追加したりできます。従って、静的サーバグループに対して行った割り当てはすべてワークステーションタイプデバイスにまで伝わり、その逆にも伝わりますが、これには関連性がない可能性があります。

割り当ては必ず同じデバイスタイプ間でのみコピーする必要があります。たとえば、サーバからはサーバへ、ワークステーションからはワークステーションへコピーします。サーバフォルダ、サーバグループ、またはサーバから、それぞれワークステーションフォルダ、ワークステーショングループ、またはワークステーションにコピーしたり、その逆にコピーしたりしないでください。

解決策：静的デバイスグループから手動でデバイスを削除します。

6.4.6 イメージングサテライトサーバ (11.3.1 以前) が最初のプライマリサーバと通信できない

POODLE 脆弱性の修正のため、古いイメージングサテライトサーバ (11.3.1 以前) は ZENworks 11 SP4 プライマリサーバと通信できません。

解決策：次のいずれかの操作を実行します。

- ◆ 通信できないイメージングサテライトサーバにこの **POODLE** パッチを適用します。これは、イメージングのコンテキストでの通信にしか影響しないため、最初のプライマリサーバを 11.4 にアップグレードした後も適用可能です。

または

- ◆ すべてのイメージングサテライトサーバを ZENworks 11 SP4 にアップグレードします。

6.4.7 サーバ証明書が期限切れであっても、*Remint Server Certificate (サーバ証明書の再作成)* オプションが使用可能である

Remint Server Certificate (サーバ証明書の再作成) 機能は、期限切れのサーバ証明書ではサポートされません。ただし、*Remint Server Certificate (サーバ証明書の再作成)* オプションは、サーバ証明書が期限切れであっても表示されます。このオプションをクリックしても、再作成に進むことはできません。

解決策：ありません。サーバ証明書が期限切れの場合、*Remint Server Certificate (サーバ証明書の再作成)* オプションは無視してください。

6.4.8 プライマリサーバのコンソールセッションで [ZENNotify] アイコンの *Check for updates* (更新のチェック) オプションが使用できない

/console オプションを使用してリモートでコンソールセッションを確立した場合、[ZENNotify] アイコンに *Check for updates* (更新のチェック) オプションが表示されません。

解決策：同じ機能を実現するには、`zac zeus-refresh` コマンドを実行する必要があります。

6.4.9 再作成システム更新が、ゾーン CA をアクティブ化した後に追加されたプライマリサーバまたは管理対象デバイスに割り当てられる

ゾーン CA の再作成中に CA をアクティブ化した後に、新しいプライマリサーバまたは管理対象デバイスをゾーンに追加すると、再作成システム更新は自動的にそのデバイスに割り当てられます。プライマリサーバでは、プライマリサーバの証明書が新しい CA によって発行済みであっても、この現象が発生します。

解決策：ありません。システム更新を完了します。

6.4.10 管理対象デバイスがその認証サテライトサーバと通信できない

管理対象デバイスに Microsoft KB3061518 (<https://support.microsoft.com/en-us/kb/3061518>) のセキュリティ更新プログラムを適用した場合、デバイスはその認証サテライトサーバと通信できなくなります。この問題は、DSA 証明書を使用する内部 CA ゾーンと外部 CA ゾーンで発生します。

Logjam (<https://weakdh.org/>) 脆弱性に対応するため、11 SP4 の認証サテライトサーバには修正プログラムが組み込まれています。ただし、この修正プログラムでは、11 SP4 へのアップグレード後に認証サテライトサーバの SSL サーバ証明書を再作成する必要があります。サーバ証明書の作成が完了していない場合、最近接サーバルール (CSR) に旧バージョンの認証サテライトサーバ (11 SP4 より前) または 11 SP4 のプライマリサーバが含まれていれば、管理対象デバイスは引き続き承認されます。

解決策：次のいずれかを実行します。

- ◆ プライマリサーバを 11 SP4 にアップグレードして、認証サテライトサーバの証明書を再作成します。証明書の再作成の詳細については、『ZENworks 11 SP4 SSL Management Reference』の「[Reminting Server Certificates](#)」を参照してください。

または

- ◆ 次の `zac` コマンドを実行します。
 - ◆ Windows 認証サテライトサーバの場合：`zac asr -t all`
 - ◆ Linux 認証サテライトサーバの場合：`zac rsc`


6.4.11 エージェントのインストール後、Windows 8 または Windows 8.1 オペレーティングシステムがインストールされた Lenovo および HP 製のタブレット PC がクラッシュしたり、間違ったシリアル番号が表示されたりすることがある

ZENworks Adaptive Agent のインストール後、古いバージョンの Intel Atom プロセッサを搭載し、Windows 8 または Windows 8.1 オペレーティングシステムがインストールされた Lenovo および HP 製のタブレット PC が、管理ゾーンへの登録試行中にクラッシュすることがあります。インストール後にエージェントが管理ゾーンに正常に登録される場合は、システムコンポーネントに間違ったシリアル番号が表示されることがあります。

重要：運用デバイスへの展開を行う前に、すべてのターゲットデバイスモデルで展開をテストすることをお勧めします。

解決策：ありません。

6.4.12 Mac OS X 10.7.x プラットフォームで ZENworks プロパティページが空白になる

Macintosh OS X 10.7.x デバイスで  アイコンをダブルクリックすると、ZENworks プロパティページが空白になります。

解決策：Macintosh OS X 10.7.x を 10.8 以上のバージョンにアップグレードします。

6.4.13 Sybase データベースで起動場所の監査に失敗する (制約違反例外)

Sybase データベースで、起動場所の監査イベントの処理中に監査プロセスが次のエラーで失敗します。

```
com.novell.zenworks.datamodel.audit.AuditDataModelException:  
org.hibernate.exception.ConstraintViolationException: ((Sybase())((JDBC Driver))((SQL Anywhere())Column  
'FK_ZSTARTUP_LOC_TARGET_ENVT' in table 'CA_STARTUP_LOC' cannot be NULL
```

解決策：Sybase データベースの起動場所を監査するには、次の手順に従います。

- 1 Audit データベースにログインします。
- 2 次のクエリを実行します。

```
if exists (select * from sysconstraint where constraint_name='FK_ZSTARTUP_LOC_TARGET_ENVT')  
alter table CA_STARTUP_LOC drop constraint FK_ZSTARTUP_LOC_TARGET_ENVTGOIF NOT EXISTS  
( SELECT * FROM sysconstraint WHERE constraint_name = 'FK_ZSTARTUP_LOC_TARGET_ENVT' )  
ALTER TABLE CA_STARTUP_LOC ADD CONSTRAINT FK_ZSTARTUP_LOC_TARGET_ENVT  
FOREIGN KEY (TARGETGUID1) REFERENCES ZNWENV_REF ON DELETE CASCADE
```

6.4.14 RHEL イメージングサーバが ZENworks 11 SP4 プライマリサーバと通信できない

RHEL サーバの OpenSSL は古いバージョンであるため、RHEL プライマリサーバまたはサテライトイメージングサーバ上の ZENworks 11.3.x または 11.4 は、ZENworks 11 SP4 プライマリサーバと通信できません。

解決策：RHEL イメージングサーバに openssl-1.0.1e-30.e16_6.11.x86_64.rpm ファイルをインストールします。

6.4.15 SLES 12 イメージングサーバが ZENworks 11 SP 4 プライマリサーバと通信できない

SLES 12 サーバの OpenSSL がデフォルトバージョンの場合、11 SP4 プライマリサーバとの通信が切断されます。

解決策：libopenssl1_0_0-1.0.1k-2.24.1.x86_64.rpm ファイルを使用して、デフォルトバージョンの OpenSSL をアップデートします。

6.4.16 ZENworks Remote Management の空白画面での操作に関する問題

- ◆ リモートマシンで Remote Management の空白画面の操作を実行しているときに、画面がちらついたり、パフォーマンスが低下したりすることがあります。
- ◆ Remote Managementの空白画面での操作はWindows 8.1以上のオペレーティングシステムでは使用できないため、この操作はリモート診断時にも無効になります。

6.4.17 ZENworks 11 SP4 サーバから 11.3.x 以前の管理対象デバイスをリモート制御できない

ZENworks 11 SP4 は SHA-256 アルゴリズムを使用して自己署名証明書を生成しますが、これは 11.3.x 以前の管理対象デバイスではサポートされません。そのため、SSL ハンドシェイクに失敗し、ZENworks 11 SP4 サーバはこれらの古いデバイス上でリモート操作を実行できません。

解決策：リモートセッションを開始したデバイスで次の手順を実行します。

- 1 リモート管理ポリシーの Session Security (セッションのセキュリティ) セクションで、*Allow connection when Remote Management Console does not have SSL certificate (Remote Management コンソールに SSL 証明書がない場合、接続を許可する)* オプションを有効にします。
- 2 HKEY_CURRENT_USER\Software\Novell\ZCM\Remote Management\Viewer\Settings パスに、タイプ DWORD およびゼロ以外の任意の値で、SkipOperatorCert レジストリキーを作成します。

6.4.18 メッセージの表示起動アクションを使用してバンドルを起動した場合、メッセージが正しく表示されない

SLES 12 デバイスでは、メッセージの表示起動アクションを使用してバンドルを起動した場合、システムトレイの ZIcon にメッセージが正しく表示されません。

解決策：ありません

6.5 Endpoint Security Management

この項では、ZENworks 11 SP4 Endpoint Security Management の使用時に発生する可能性がある問題について説明します。

- ◆ [13 ページのセクション 6.5.1 「USB 1.x デバイスの暗号化サポートの中止」](#)
- ◆ [14 ページのセクション 6.5.2 「ストレージデバイス制御ポリシーを使用した読み込み専用デバイスからのファイルの削除」](#)

6.5.1 USB 1.x デバイスの暗号化サポートの中止

データ暗号化ポリシーで USB 1.x デバイスはサポートされなくなりました。

6.5.2 ストレージデバイス制御ポリシーを使用した読み込み専用デバイスからのファイルの削除

ストレージデバイス制御ポリシーを使用すると、リムーバブルストレージデバイス (USB ドライブ など) を読み込み専用として指定できます。ユーザが読み込み専用デバイスからファイルを削除した場合、ファイルは削除されていないにもかかわらず、Windows エクスプローラーに表示されなくなります。ファイルをもう一度表示するには、デバイスを取り外して再度挿入する方法しかありません。

6.6 Full Disk Encryption

この項では、ZENworks 11 SP4 Full Disk Encryption の使用時に発生する可能性がある問題について説明します。

- ◆ 14 ページのセクション 6.6.1 「仮想環境およびシンクライアント環境はサポートされない」
- ◆ 14 ページのセクション 6.6.2 「自己暗号化ドライブで暗号化モードを切り替えると、*KEK status unknown ! System Halted* (KEK の状態が不明です。システムは停止しました) エラーが発生する」
- ◆ 15 ページのセクション 6.6.3 「自己暗号化 (OPAL) ドライブ上の Full Disk Encryption をアップグレードできない」
- ◆ 15 ページのセクション 6.6.4 「アップグレード中に既存のポリシーの DMI 設定が更新されない」

6.6.1 仮想環境およびシンクライアント環境はサポートされない

Full Disk Encryption は仮想環境ではサポートされません。仮想マシンまたはシンクライアント経由でアクセスするマシンに ZENworks Adaptive Agent をインストールした場合、Full Disk Encryption を有効にしないでください。

6.6.2 自己暗号化ドライブで暗号化モードを切り替えると、*KEK status unknown ! System Halted* (KEK の状態が不明です。システムは停止しました) エラーが発生する

自己暗号化ドライブが存在するデバイスで、デバイスの現在の *Enable software encryption of Opal compliant self-encrypting drives* (OPAL 準拠の自己暗号化ドライブのソフトウェア暗号化を有効にする) 設定を上書きする (有効化または無効化する) ディスク暗号化ポリシーを適用すると、デバイスに黒い画面が表示され、*KEK status unknown ! System Halted* (KEK の状態が不明です。システムは停止しました) というエラーが表示されます。

Full Disk Encryption では、最初のポリシーを完全に削除することなく自己暗号化ドライブのソフトウェア暗号化設定を変更し、2 番目のポリシー (変更されたソフトウェア暗号化設定を使用) を適用することはできません。このような操作から保護するため、ディスク暗号化ポリシーでは、ポリシーの作成後に、この設定 (*Enable software encryption of Opal compliant self-encrypting drives* (OPAL 準拠の自己暗号化ドライブのソフトウェア暗号化を有効にする) オプション) を変更することはできません。ただし、このオプションを別の設定にして 2 番目のポリシーを作成し、そのポリシーをデバイスの有効なポリシーにすることは可能です (デバイスのポリシーリストで最初のポリシーよりも上位に配置して、デバイスフォルダ経由ではなくデバイスに直接割り当てるなど)。これが発生した場合、デバイスの画面が黒く表示されます。

解決策：デバイスからディスク暗号化ポリシーの割り当てをすべて削除し、完全に削除されたこと（ディスクが暗号化解除されて PBA が削除されたこと）を確認します。（正しいソフトウェア暗号化設定を使用して）デバイスにディスク暗号化ポリシーを割り当てます。

6.6.3 自己暗号化 (OPAL) ドライブ上の Full Disk Encryption をアップグレードできない

詳細については、アップグレードの既知の問題に記載されている [5 ページのセクション 6.2.2 「自己暗号化 \(OPAL\) ドライブ上の Full Disk Encryption をアップグレードできない」](#) を参照してください。

6.6.4 アップグレード中に既存のポリシーの DMI 設定が更新されない

このリリースでは、追加のデバイスをサポートするために新しい DMI 設定が追加されています。これらの新しい DMI 設定は、新しい Full Disk Encryption ポリシーを作成したときに自動的に組み込まれます。ただし、アップグレード時には、既存のポリシーの DMI 設定は新しい設定に更新されません。これは、現在のポリシーの状態を維持し、割り当てられたデバイスでそれらを引き続き動作させるための意図的な動作です。

新しい DMI 設定を既存のポリシーに追加する場合、手動で追加する必要があります。このためには、新しく作成したポリシーから設定を切り取って貼り付けます。Linux プライマリサーバの場合は `etc/opt/novell/zenworks/fde/dmi.ini` ファイル、Windows プライマリサーバの場合は `novell/zenworks/conf/fde/dmi.ini` ファイルです。

6.7 Patch Management

この項では、ZENworks 11 SP4 Patch Management の使用時に発生する可能性がある問題について説明します。

- ◆ [15 ページのセクション 6.7.1 「Dashboarding および Trending の文脈依存型ヘルプで、\[Save Patch Status History \(パッチ状態の履歴の保存\)\] オプションが適切に説明されていない」](#)

6.7.1 Dashboarding および Trending の文脈依存型ヘルプで、[Save Patch Status History (パッチ状態の履歴の保存)] オプションが適切に説明されていない

Configuration (環境設定) > [Patch Management] > [Dashboarding and Trending (Dashboarding および Trending) の文脈依存型ヘルプに、Save Patch Status History (パッチ状態の履歴の保存) オプションが適切に説明されていません。

解決策：このオプションは、パッチ状態の履歴に関する日次レコードをデータベースに保存します (Patch Management ダッシュボードのパッチコンプライアンスグラフでも使用されます)。10,000 を超えるノードがあるエンタープライズでは、このオプションを使用しないでください。すべてのノードとパッチのデータが保存されるので、データベースの容量が短時間で大量に消費される可能性があります。

7 その他のマニュアル

この README は、ZENworks 11 SP4 に固有の問題をリストしています。他のすべての ZENWorks 11 SP4 のマニュアルについては、[Novell ZENworks 11 SP4 マニュアルの Web サイト \(http://www.novell.com/documentation/zenworks114/\)](http://www.novell.com/documentation/zenworks114/) を参照してください。

8 保証と著作権

米国 Novell, Inc. およびノベル株式会社は、この文書の内容または使用について、いかなる保証、表明または約束も行っておりません。また文書の商品性、および特定の目的への適合性については、明示と黙示を問わず一切保証しないものとします。米国 Novell, Inc. およびノベル株式会社は、本書の内容を改訂または変更する権利を常に留保します。米国 Novell, Inc. およびノベル株式会社は、このような改訂または変更を個人または事業体に通知する義務を負いません。

米国 Novell, Inc. およびノベル株式会社は、すべてのノベル製ソフトウェアについて、いかなる保証、表明または約束も行っておりません。またノベル製ソフトウェアの商品性、および特定の目的への適合性については、明示と黙示を問わず一切保証しないものとします。米国 Novell, Inc. およびノベル株式会社は、ノベル製ソフトウェアの内容を変更する権利を常に留保します。

本契約の下で提供される製品または技術情報はすべて、米国の輸出管理規定およびその他の国の輸出関連法規の制限を受けます。お客様は、すべての輸出規制を遵守して、製品の輸出、再輸出、または輸入に必要なすべての許可または等級を取得するものとします。お客様は、現在の米国の輸出除外リストに掲載されている企業、および米国の輸出管理規定で指定された輸出禁止国またはテロリスト国に本製品を輸出または再輸出しないものとします。お客様は、取引対象製品を、禁止されている核兵器、ミサイル、または生物化学兵器を最終目的として使用しないものとします。ノベル製ソフトウェアの輸出については、[Novell International Trade Services \(http://www.novell.com/info/exports/\)](http://www.novell.com/info/exports/) の Web ページをご参照ください。弊社は、お客様が必要な輸出承認を取得しなかったことに対し如何なる責任も負わないものとします。

Copyright © 2015 Novell, Inc. All rights reserved. 本書のいかなる部分も、出版社の書面による許可なく、複製、写真複写、検索システムへの登録、転送を行ってはなりません。

Novell の商標については、「[商標とサービスマークの一覧 \(http://www.novell.com/company/legal/trademarks/tmlist.html\)](http://www.novell.com/company/legal/trademarks/tmlist.html)」を参照してください。

サードパーティの商標は、それぞれの所有者に属します。